

1. WHO 西太平洋地域事務局内における新興再興感染症や薬剤耐性の臨床マネジメントと感染管理向上事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

WPRO 域内では新興再興感染症のキャパシティが不十分な国が多く、近年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大が世界中で継続している。アウトブレイクの要因の 1 つとして、域内での臨床マネジメントや感染管理の不十分が指摘されている。

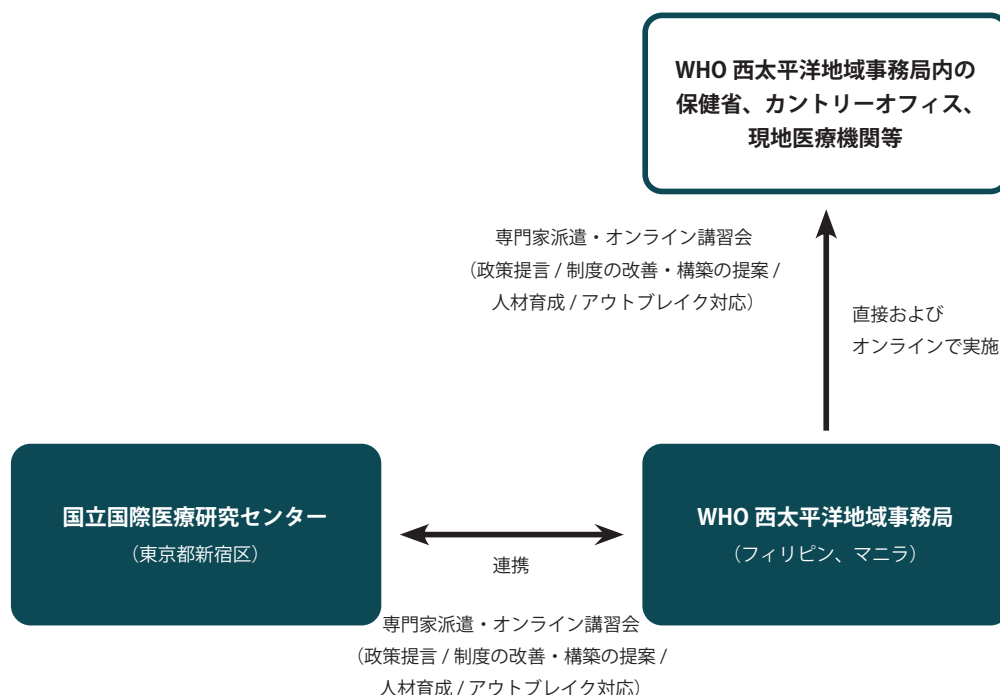
一方、日本では培われてきた臨床マネジメントや感染管理の医療技術がある。

【事業の目的】

日本でこれまで培ってきた COVID-19 などの新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を国際展開し、主に WPRO 域内における新興再興感染症の臨床マネジメント、感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策などを改善させる。

【研修目標】

- WPRO 域内において、WHO レベル、国レベル（保健省）、医療施設レベル、それぞれのレベルにおいて、日本で培われた新興再興の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を用いて、研修会や現場評価を通じて、アウトブレイク対策や人材育成を行う。
- さらに、成果等を提言に含んだレポートとして少なくとも 1 回は WHO や国レベルに報告する。

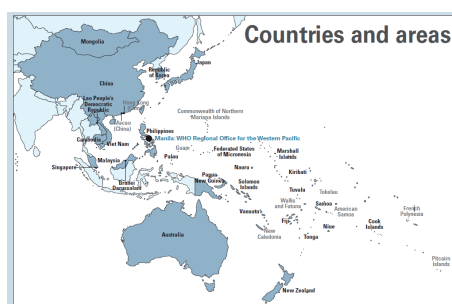


本事業の対象国はフィリピン（WHO 西太平洋事務局：WPRO）で、対象医療技術は日本で培われてきた新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術になります。

事業の背景を説明します。WPRO 域内では新興再興感染症のキャパシティが不十分な国が多く、近年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が世界中で継続しています。また、アウトブレイクの要因の1つとして、域内での臨床マネジメントや感染管理の不十分が指摘されています。一方、日本では培われてきた臨床マネジメントや感染管理の医療技術があります。

次に事業の目的です。本事業の目的は、日本でこれまで培ってきた COVID-19 などの新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を国際展開し、主に WPRO 域内における新興再興感染症の臨床マネジメント、感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策などを改善させることです。

実施体制の概略図ですが、WPRO と協力して、WPRO 域内において、WHO レベル、国レベル（保健省）、医療施設レベル、それぞれのレベルにおいて、日本で培われた新興再興の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を用いて、専門家派遣・オンライン講習会など通じて、アウトブレイク対策や人材育成を行うことを目標とします。さらに、成果等を提言に含んだレポートとして少なくとも1回はWHOや国レベルに報告します。



WHO西太平洋地域事務局（WPRO）は、フィリピン、マニラに位置し、日本、中国などのアジア太平洋地域を管轄するWHOの地域事務局で、主に域内の人々の健康を実現することを目的に活動を行っている

WPRO は、フィリピン、マニラに位置し、日本、中国などのアジア太平洋地域を管轄する WHO の地域事務局で、主に域内の人々の健康を実現することを目的に活動を行っています。

1年間の主な事業内容

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
セミナー、1日間 WPRO, 50名 WPRO high level meeting for AMR							セミナー、1日間 WPRO, 50名 WPRO COVID-19 Seminars		セミナー、1日間 WPRO, 50名 WPRO COVID-19 Seminars	
	フォーラム、1日間 WPRO, 50名 Overview of Partners' Forum 2021									
		セミナー、1日間 WPRO, 50名 WPRO TAG meeting								
		研修、1日間 スリランティサロソ病院 50名 COVID-19の臨床：治療指針ならびに院内感染管理								COVID-19のアウトブレイク対応 パプアニューギニア、フィリピンに 日本人専門家4名を派遣
研修、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月（各1日間） カンビナス大学、30名 COVID-19の臨床：治療指針ならびに院内感染管理										

多く事業がCOVID-19に関する活動で、オンラインで実施

5

こちらが 2021 年度の 1 年間の主な事業内容になります。多くの事業が COVID-19 に関する活動で、オンラインで実施しました。WPRO と共催でセミナーを行うとともに、COVID-19 のアウトブレイク対応として、パプアニューギニアとフィリピンに日本人専門家 4 名を派遣しました。

主な成果: GOARN 派遣 (COVID-19アウトブレイク対応)

- 日本人専門家4名をフィリピン、パプアニューギニアにGOARN派遣行った。



2022年2月1日



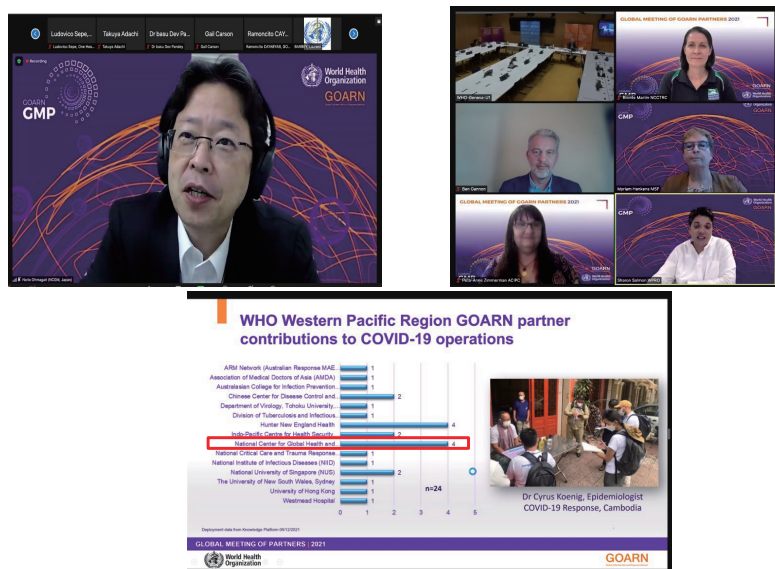
2022年2月14日

派遣中の専門家の先生方とウェブ会議を実施

次に主な成果についてご説明します。COVID-19 のアウトブレイク対応として、日本人専門家 4 名をフィリピン、パプアニューギニアに GOARN 派遣を行いました。こちらは、派遣中の専門家の先生方とのウェブ会議の様子になります。

主な成果 : GOARN Meeting of Partners 2021

- WHOが主催するGOARNパートナー機関向けの「GOARN Meeting of Partners」の人材育成プログラムセッションに大曲センター長がパネリストとして登壇

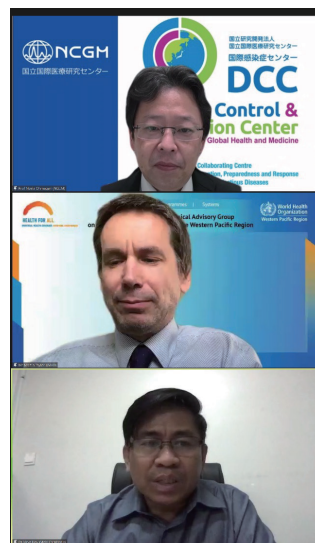


2021年12月16日

12月には、WHO が主催する GOARN パートナー機関向けの「GOARN Meeting of Partners」の人材育成プログラムセッションに大曲センター長がパネリストとして登壇しました。米国 CDC やドイツのロベルト・コッホ研究所らのパネリストとともに、日本における人材育成について発表しました。また、本会議にて WPRO の GOARN 担当者より、WPRO 地域における COVID-19 対応の GOARN 派遣者数は、NCGM が英国公衆衛生庁とともに 4 名と多いことも紹介されました。

主な成果：WPROとの共催セミナー

Planning for endemic COVID-19 – emerging lessons on clinical management and care pathway in the Region



2021年11月22日

WPRO との共催セミナー（Planning for endemic COVID-19 - emerging lessons on clinical management and care pathway in the Region）で、日本の状況について解説し、フィリピン、カンボジア、ラオス、ベトナムの専門家と意見交換を行いました。

主な成果：WPROとの共催セミナー

Learning from Japan's response during Omicron outbreak



2022年2月14日

感染拡大するオミクロンについて、WPRO との共催セミナーで日本のオミクロン株に対する対応について共有しました。

2021年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①国際政府会議に直接およびオンラインで参加し、約50名を対象に臨床マネージメントと感染管理について提言を実施。 ②バックマイ病院（ハノイ、ベトナム）において、感染症専門医、感染管理看護師などを中心として医療従事者約100名に感染管理の技術指導を直接およびオンラインで実施。	①新興再興感染症の臨床マネージメントや感染管理の改善のための提言を含んだレポートをWHO、国（保健省）、医療機関レベルに少なくとも年に1回提出する。	①WHO、国（保健省）、医療施設レベルにおける新興再興感染症の臨床マネージメント、感染管理、抗菌薬適正使用のキャパシティ・ビルディング向上が期待される。 ②さらに、整備不十分な臨床マネージメント、感染管理、抗菌薬適正使用のガイドラインの策定も期待される。
実施後の結果	①WPROや各国とのウェブセミナー・研修を通じて、 620名以上の 医療従事者を対象に、主にCOVID-19の臨床マネージメントと感染管理について提言を実施した。 ②スリランティサロッソ病院（インドネシア）やカンピーナス大学（ブラジル）の感染症専門医、感染管理看護師などを中心とする医療従事者 約100名 に感染管理の技術指導をオンラインで実施した。	①新興再興感染症の臨床マネージメントや感染管理の改善のための提言を含んだレポートをWHO、国（保健省）、医療機関レベルに提出した。 ②各国で参考となるように、 無症候および軽症COVID-19の治療ガイドライン を作成した。 ③フィリピンおよびパプアニューギニアへ、 4名の日本人専門家のGOARN派遣を通じて、COVID-19のアウトブレイク対策 を行うと共に、現地の人材育成を行った。	①WHO、国（保健省）レベル、医療施設レベルにおける新興再興感染症、特にCOVID-19の臨床マネージメント、感染管理のキャパシティ・ビルディング向上が期待された。 ・さらに、整備不十分な COVID-19の臨床マネージメント、感染管理のガイドラインの策定 も期待された。

10

こちらは、2021年度の事業の成果指標とその結果になります。お示しするように、アウトプット指標、アウトカム指標、インパクト指標いずれも達成できたと考えています。

2021年度の相手国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
 - － 主にWPRO域内の各国で参考となるように、**無症候および軽症COVID-19の治療ガイドライン**を作成し提言した。
 - － 2022年3月時点で各国のガイドラインに採択するか検討中である。

健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）：**620名**
 - － 遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数：740名
 - ・ WPROとの共同セミナー：計5回、250名
 - ・ スリランティサロッソ病院（インドネシア）：1回、50名
 - ・ カンピーナス大学（ブラジル）：計8回、240名
 - ・ フィリピン政府：計2回、40名
 - ・ パプアニューギニア政府：計2回、40名

2021年度の相手国への事業のインパクトです。医療技術・機器の国際展開における事業のインパクトとしては、主にWPRO域内の各国で参考となるように、無症候および軽症COVID-19の治療ガイドラインを作成し提言しました。

2022年3月時点で各国のガイドラインに採択するか検討中です。

健康向上における事業のインパクトとしては、本事業における遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを通じて延べ620名の保健医療従事者を育成しました。

2021年度の成果

- ・ 2021年度もCOVID-19の影響で渡航困難となりオンラインでの研修が主な活動になったが、一方で**オンラインでの研修や教育の方法を継続的に確立**することが可能となった。
- ・ 2021年度に行ったオンラインでの研修会
 - ・ WPROとの共同セミナー 5回
 - ・ スリランティサロッソ病院（インドネシア） 1回
 - ・ カンピーナス大学（ブラジル） 8回
- ・ また、GOARN、WPROからの依頼に基づいて、COVID-19アウトブレイクに対して、日本人専門家4名のGOARN派遣を行った。
 - ・ パプアニューギニア：IPC、12/26-2/13（現地派遣）
 - ・ パプアニューギニア：Epidemiologist、12/22-3/1（現地派遣）
 - ・ フィリピン：Data management、12/1-2/18（フルリモート）
 - ・ フィリピン：Data management、1/13-3/31（リモートと現地派遣）
- ・ さらに、2019年度の展開事業で実施した、パプアニューギニア保健省に提出した感染管理対策アクションプランが、2021年5月に同国の政策として正式に承認された。

今後の課題

- ・ COVID-19の臨床マネージメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられたが、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、**継続的な日本の医療技術の展開が必要**と考えられる。
- ・ 今後は治療や感染管理だけではなく、**ワクチンに関するニーズ**も予想される。
- ・ 対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるよう、**オンラインもしくはオンラインで医療技術の展開**を行っていききたい。

12

2021年度の成果と今後の課題です。2021年度も、COVID-19の影響で渡航困難となりオンラインでの研修が主な活動になりましたが、一方でオンラインでの研修や教育の方法を継続的に確立することができました。

また、GOARN、WPROからの依頼に基づいて、COVID-19アウトブレイクに対して、日本人専門家4名のGOARN派遣を行いました。さらに、2019年度の展開事業で実施したパプアニューギニア保健省に提出した感染管理対策アクションプランが、2021年5月に同国の政策として正式に承認されました。

今後の課題です。2021年度の事業でCOVID-19の臨床マネージメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられましたが、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられました。

今後は治療や感染管理だけではなく、ワクチンに関するニーズも予想されます。対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるようにオンラインもしくはオンラインで医療技術の展開を行っていきたいと考えています。

展開推進事業としての将来の事業計画**1. 対象地域・国における感染症分野の公衆衛生・医療水準の向上**

- ・ 本事業は、WHO西太平洋地域内における新興再興感染症、特にCOVID-19の臨床マネージメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられた。
- ・ しかし、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられる。
- ・ 実際に、2022年3月以降もWPROからの依頼で、**WPRO域内のCOVID-19の臨床マネージメントや感染管理の改善のための専門家の現地派遣や、オンラインでの講習会の依頼**が継続的に来ている。
- ・ 今後も、日本で培ってきたCOVID-19などの新興再興感染症の臨床マネージメントや感染管理の医療技術を研修や教育を通じて国際展開し、各国のガイドライン策定や改訂に貢献し、**対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上**に貢献できるよう努めたい。

最後に、将来の事業計画です。本事業は、WHO西太平洋地域内における新興再興感染症、特にCOVID-19の臨床マネージメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられました。しかし、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられます。実際に2022年3月以降も、WPROからの依頼でWPRO域内のCOVID-19の臨床マネージメント、感染管理の改善のための専門家の現地派遣、オンラインでの講習会の依頼が継続的に来ている。

今後も、日本で培ってきたCOVID-19などの新興再興感染症の臨床マネージメントや感染管理の医療技術を研修や教育を通じて国際展開し、各国のガイドライン策定や改訂に貢献し、対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるよう努めていきたいと考えています。